

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	名古屋大学	整 理 番 号	1810
プログラム名称	未来エレクトロニクス創成加速 DII 協働大学院プログラム		
プログラム責任者	藤巻 朗	プログラムコーディネーター	天野 浩
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム自身は非常に完成度が高く、常に教員や履修生からのフィードバックを基に PDCA サイクルが回され、継続的にブラッシュアップされている。特に産学官連携による教育指導・メンター体制は知のプロフェッショナル育成体制として群を抜くものである。コロナ禍による影響（海外渡航、企業との共同研究、インターンシップ）を受けながらも開催方法・開催時期を工夫し、可能な限り影響を最小限にとどめている。 ・面談した学生は M2～D3 全員が本プログラムの趣旨を理解し、また、それぞれ自らの能力・キャリアパスに対してのビジョンをしっかりとっており、本プログラムが目指した育成の成果が十二分に出ていると言える。特に学生は本プログラムの履修を通じて、学外活動（起業提案、Tongali 等のコンテスト提案、学会発表など）において秀でた能力を獲得していることを（学内外の他の学生と比較しても）実感していることがとても印象的であった。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <p>併設する他 3 つの卓越大学院プログラムとともに、当大学が進める卓越大学院プログラムのグッドプラクティスを、並走しているフェロシップ事業、次世代研究事業を含め、全学の大学院に展開すべく、博士課程教育推進機構を設置し、「研究力強化」、「キャリアパス支援」、「学生への経済的支援」の 3 本柱を核として大学院全体が企業メンターを含め産学連携で「知のプロフェッショナル」育成と輩出を継続する仕組みを構築している。今後はこの成果が輩出される学生の知のプロフェッショナルとしての活躍が期待されると同時に、学外（特に産学官を対象とした学生の受け入れ機関）へのアピールに期待する。</p> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムそのもののデザイン、運用、全学への展開に加え、学生の能力（育成結果）については申し分のないレベルであり、高く評価できる。しかしながら学生を含めて満足度の高いこのプログラムへの応募者が定員を大幅に割りつつあるところが懸念される。コロナ禍が要因となり留学生の確保が困難となる状況ではあるが、応募数そのものが期待値（定員）を大きく割り込んでいることは、至急何らかの対策を講じる必要があるものと考え。特に、学部から育成された日本人学生に対するリクルート施策の再検討を期待する。 ・応募数の問題は、既にその対策として取り組まれているプログラムそのものに関する学生への情報提供、広告だけでは不十分であることを示している。履修する学生は非常にレベルの高い能力を身に付けており、学外でも高い評価を得ている。本プログラムへの応募に対するモチベーションとしてプログラムの実成果であるプログラム学生の姿や活躍をポテンシャル学生に示すことも重要ではないか。 ・非常によく作りこまれ、ノウハウの築盛がされた卓越大学院やリーディングプログ 			

ラムでの学位プログラム制度を基に、現在大学執行部で検討されている次世代の博士人材を養成する新しい学位プログラムの構築を推進されることを期待する。